

平成29年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（秋季）

刑法

以下の問いに全て答えよ。

I 正当防衛と緊急避難の異同について詳述せよ。

II 次の事例につき、X 及び Y の罪責はどのようになるか。議論状況を整理した上で、私見を展開せよ。

高級住宅街に住んでいる X は、現在使っていない自己所有の犬小屋に数日前から野良猫数匹が棲み着いて悪臭を放っていたことから、この犬小屋を焼却してしまおうと考えた。そこで、X は、友人の Y に事情を話し、3 万円を渡して当該犬小屋の焼却を依頼した。その際、X は、Y に対して、犬小屋だけを焼却し、くれぐれも犬小屋から 15 メートル離れたところにある X 宅建物（X 所有で、現在 X が単独で住居として使用）を燃やすことがないように注意を与えた。

X の依頼を快諾した Y は、野良猫を追い出した後、犬小屋だけを焼却しようと、当該犬小屋に少量の灯油をかけ、ライターで点火した。しかしながら、当該犬小屋が独立燃焼を開始した時点で、予想外の突風が吹き、X 宅建物に火の手が及んだ。その結果、X 所有の犬小屋と建物が全焼した。なお、X 宅建物及び犬小屋に火災保険は付されていないものとする。